



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第17回 「4月30日～5月1日の 米連邦公開市場委員会について」

4月30日から5月1日にかけて本年3回目の「米連邦公開市場委員会（FOMC）」が開催され、政策金利引き下げは見送られました。また、FOMC会合と相前後するタイミングで為替市場が大きく変動しました。今週の「Weekly Letter」では、今回のFOMCの内容と今後の注目点について、来週は乱高下した為替市場についてお伝えしたいと思います。

～第3回FOMCの決定内容～

米連邦準備理事会は4月30日から5月1日にかけて米連邦公開市場委員会（FOMC）を開催し、政策金利をこれまでと同じ5.25～5.50%を維持することを決定しました。昨年7月のFOMCで政策金利が現行の水準に引き上げられて以来、6会合連続で据え置かれました。本年に入り、米国景気は堅調な動きを維持し、物価上昇率や雇用関連の経済統計が強めに推移していたため、市場関係者の注目点はパウエルFRB議長が追加利上げに言及するかということでした。会合後の記者会見で、パウエル議長はインフレ率の低下にはまだ時間がかかりそうだとしながらも、追加利上げの可能性は否定しました。また、FRBはコロナ禍対策等のために大量に供給した資金を回収する量的引き締めを2022年6月から行ってきましたが、今回のFOMCで量的引き締めのペースを遅らせることも決定しました。具体的には、来月から保有している米国国債の市場への売却上限を月に600億ドルとしていましたが、売却上限を250億ドルに減額することです。住宅ローン担保証券（MBS）の売却については売却上限350億ドルが維持されます。この結果、量的引き締めはこれまでの950億ドルから600億ドルに減額されます。FRBとしては、インフレの鎮静化がなかなか進まないため高い政策金利を維持する一方、市場からの資金吸収量を減額してバランスをとることで景気に対するショックを和らげたいとの意図が感じられます。

～今後の注目点～

今後の市場参加者が注目している点は、物価上昇率の低下がなかなか進まない状況で年内の政策金利の引き下げがあと何回行われるのかということです。その点で次回6月のFOMCで発表される「理事の方々の経済見通し」が注目点になります。

裏面、表1は前回3月に発表された経済見通しです。この表の1行目、政策金利のところをご覧ください。

2024年末の予想が4.6%（4.50%～4.75%の中央値）となっています。現在の政策金利は、5.4%(中央値)ですので、年末までに0.8%低下する予想となっており、1回の利下げ幅を0.25%とすると年末までに3回の利下げが行われるということでした。次回の経済見通しで、この3回の利下げからどれだけ減るのかに注目が集まるでしょう。米国の金融市場参加者は、政策金利の引き下げを切望しています。年初には金利引き下げの回数を5～6回と期待していましたが、インフレ沈静化のスピードが遅かったり、雇用者数の伸びが予想以上に高くなったりと、時が過ぎるごとに年内の引き下げ回数は減少してきました。それに呼応するように米国株式市況も上値の重い展開となっています。「理事の方々の経済見通し」がどのようになるか6月11～12日開催のFOMCに注目していきたいと思います。

次週はゴールデンウィーク中に起こった為替市場の急変動についてお伝え致します。

いつも当レターに目を通していただきありがとうございます。
引き続きよろしくお願い致します。

表1

FRBメンバーの経済・政策金利予測【2024年3月】				
	カッコ内は前回見通し、単位は%			
	2024年	2025年	2026年	長期
政策金利	4.6 (4.6)	3.9 (3.6)	3.1 (2.9)	2.6 (2.5)
実質GDP成長率	2.1 (1.4)	2.0 (1.8)	2.0 (1.9)	1.8 (1.8)
失業率	4.0 (4.1)	4.1 (4.1)	4.0 (4.1)	4.1 (4.1)
コアPCE上昇率	2.6 (2.4)	2.2 (2.2)	2.0 (2.0)	

(西村証券 作成)